

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人 胆沢やまゆり会		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	岩手県奥州市胆沢区南都田字大持30番地		
自己評価作成日	平成28年7月28日	評価結果市町村受理日	平成28年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0372500496-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町三丁目19-1 岩手福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、胆沢高齢者総合福祉施設ぬくもりの家の併設施設として開設15年目を迎え、法人の理念「優しく、温かく、共に生きる」の基、ぬくもりの家「利用者の幸せ、地域の幸せ、私たちの幸せ」の実現に向けて取り組み、地元幼稚園、小学校、個人、団体他により、地域交流スペースにおいては展示発表や各種イベントの場のふれあいなどの交流の場となっています。あす。また、保健・医療・福祉の各サービス事業所と連携を密にし、「安全・安心の基本的ケア」に取り組んでいます。今年の事業計画は、毎日の暮らしに「歌を歌おう」「ミニ運動会」や「温泉旅行」積極的に利用者が買い物等に地域に出向き人々との繋がりを持つ支援に努めます。また、地域に出向き、認知症について説明し、地域福祉に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●行政(健康増進プラザ悠悠館、胆沢総合支所健康福祉課)・医療(まごころ病院)・福祉(事業所を含む「ぬくもりの家」)が一体となった「長寿の里」にあり、三者の連携が事業所の強みとなっている。
●9事業所がそれぞれの特徴を活かしながら、地域交流スペースで利用者同士の交流も図り、単独事業所にはない温かみを感じる。
●近隣小学生が「里孫」として日常的に訪問しているほか、地域住民(14地区)が自主防災組織や運営推進会議委員として加わるなど、地域との濃いつながりが構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人基本理念・方針」「ぬくもりの家基本方針」・基本方針「ぬくもりの家キーワード」「安全・運転七則」「GH介護理念」を毎月1回、全職員で会議の前に唱和して意識の統一や向上を図っている。	法人基本理念「優しく、温かく、共に生きる」や3つの幸せ（利用者・地域・私たち）を事業所全体の基本理念としている。H16年に職員プロジェクトメンバーで理念を策定した。毎年度の事業計画作成時に振り返り、確認しており、このままでいいこと（継続）とした。朝会時にも唱和し、共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との交流では、個人、団体訪問が定期的に行われ、里孫、地元幼稚園、小・中・高生、ボランティア等の訪問を積極的に受け入れている。また、地元小学校の運動会等への積極的に参加している。年1回、地元のひめかゆ温泉への日帰り旅行をして地元の人と触れ合っている。	高齢者総合福祉施設としてグループホームを含む9事業所が併設されており、地域交流スペース壁面が地域住民の作品展示会場になっていることから、多くの交流機会が設けられている。小学校児童42人が「里孫」登録し、活発な交流が図られている。訪問ボランティアやデイサービス利用者との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「まんがで学ぶ認知症の方の気持ち」パワーポイントで里孫達等に発表する。また、地域に出向き認知症についての勉強会を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所に関する事業経過報告、生活状況の報告、自己評価、外部評価、事業計画・報告を行い、助言や意見を頂きながら、サービスが向上出来るように運営に活かしている。また、認知症についての勉強会を行い、意見交換を行っている。	福祉担当課・地域代表（区長・部落会長・商店主）・民生委員・老人クラブ役員・家族代表で構成し、年6回開催している。定型的な報告のほか、認知症のパワーポイント（画像資料）で意見交換したり、敬老会で家族との交流を企画したりしている。他事業所の事業所見学の予定もあり、今後のサービス向上に会議が活かされるよう工夫している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直面している課題解決に向けて、随時関係担当者や地域包括支援センターと連携を図っている。徘徊SOSネットワーク登録により連携を強化している。	事業所を含む施設全体は、まごころ病院・健康増進プラザ悠悠館と一体的に配置された保健・医療・福祉の拠点「達者の里」にあることから、健康福祉課や地域包括センター職員とは常に顔を会わせる環境にある。通常の事務連携のほか「健康フェスティバル」の共催等、日常的な連携関係がある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の気持ちを尊重して、全職員共通認識で安心・安全な介護に取り組めるように、目配り・気配りをしている。また、職員研修を通じて拘束をしないケアに取り組んでいる。	服薬により症状を軽減させる努力はしているが、行動が安定しない利用者の部屋にセンサーを設置して、職員が素早く対応できるようにしている。それ以外、身体拘束を必要とする方はいない。スピーチロック等を含め、「職員禁句集」を活用するなど研修機会を設けて、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会、出張復命会等を通じて意見交換を行い、虐待の危険を早期に見つけて虐待防止に努めている。また、職員禁句集を毎月読んで意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見人制度について学び、利用者個々に検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や変更等があった場合、または、介護報酬改定に伴う加算の必要性、料金改定の理由等について、家族説明会を設けて分かりやすく説明して、質問に対して丁寧に説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の掲示と管理者・受付者・職員のポスターを貼り家族へ周知している。	「ぬくもりの家」全体で4ヶ所の意見箱が利用されたことはなく、家族等が面会や通院対応で来訪した際に意見等を聞いている。利用者の写真と行事予定を毎月送付し、来訪機会が増えるよう工夫している。体力低下を心配する声に応え、併設の特養ホームまで毎日散歩している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された意見や要望・提案は、会議録を通じて上司に報告し、運営会議等でも報告している。	奥州市が設置した施設の指定管理者として、運営を法人が受託しており、施設整備時の負債がないことから、職員は待遇面で恵まれている。人事考課制度の導入と、個人目標シートの活用及び勤務ローテーションの工夫で、職員の士気の向上が図られている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、公正、公平な評価が実施されている。また、個人目標シートを作成して、やる気を引き出して向上心を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、職員研修、出張復命会を計画的に実施している。基本的な介護技術の習得を得るため、マニュアルの統一と習熟度チェックを活用してケアの統一やスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の定例会や奥州ブロックのグループホーム定例会に参加して勉強会・交流を行っている。また、グループホーム協会の職員交換研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭的な雰囲気の中で、心地よく過ごせるように、受容の態度と本人の意向を尊重にして、不穏や興奮状態の時は、寄り添って話を聞いて安心できる雰囲気作りを気配りしている。また、職員間で申し送りを通して情報の共有化して、交流を強化して質の向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態や家族の意向・要望又は、困っていることをじっくり聴いて受け止めている。入所申し込みの際は、施設内を見学して、グループホームの生活を詳しく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	奥州市地域包括支援センターと情報交換を共有していて、徘徊ネットワークに登録する際、家族に詳しく説明して同意を得てから登録申請を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護理念」を実践している。重度化に伴い、利用者が出来る事が少なくなってきたが、簡単な手作業など一緒にやれる環境づくりと一緒にやることで生きがいのある生活を支援できるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の写真を添えて、日常生活の様子を報告している。行事などには、案内文書を送り参加を促し、家族との関係を大切に、共に支え合う関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人または、家族の面会時には、地域交流スペースや談話室を利用して頂き、ゆったり触れ合えるようにしている。また、里帰りを計画して自宅へ行く機会を持ち、つながりを大事にしている。	馴染みの理髪店や美容院に家族とでかける利用者もあり、顔馴染みのデイサービス利用者との交流もある。職員の送迎で自宅訪問する「里帰り」は、短時間ではあるが馴染みの場との関係継続機会となっている。地元小学生との「里孫」交流が新しい馴染みの生まれる契機ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活習慣や思い、個性を大事にして職員間で情報を共有し、孤立せず共に支え合える環境作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族等に対して、契約が終了したその後の相談や支援や支援に応じるほか、サービス内容や事業所の変更、地域・家族への意向等にあたり相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの個性を尊重し、生活リズムやスペースを把握し、利用者の意向や思いを大切にして優しく関わるようにしている。本人に確認できない場合は、面会時又は電話で連絡した際、ご家族に確認して関わりを多く持っている。	利用者の思いや意向を、入浴時なども含めて把握するように努めているが、利用者が重度化しているため、難しい状況になっている。面会や通院対応等で家族が来訪した際に、意向を確認するようにしている。職員は担当制とし、利用者との信頼関係が継続するよう、今後も把握に努めることとしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時に家族や本人から聴取するが全てを把握できないこともある。日常生活の中で利用者とコミュニケーションを図りながら知り得た情報など家族に確認したり、関係機関から情報提供して頂き、記録に残して職員間で情報を共有して、より良いケアを目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌への記録の他、利用者の申し送りノートを活用して情報の共用を図り、一人ひとりの生活様子を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ケアプラン評価を担当職員がやっており、アセスメントやモニタリングを充実させながら、24時間シートを活用してケアプラン作成する際に反映するようにしている。また、職員同士で共有し連携を図りながら、ケアの統一を図っている。課題がある時は、カンファレンスを行ってケアプランに反映している。	毎月のケアプラン評価を元に、3ヶ月ごとに担当者・ケアマネジャーが中心になって介護計画を作成し、家族の意見も取り入れながら、ケアプランを実施している。通院対応の際に、以前より歩けなくなったとの家族の声を受け、毎日の歩行機会を増やすなど、ケアプランに反映させた例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録「気分行動・メモ生活・受診・食事量・水分量」を記録して職員間で情報の共有をケアに活かせるようにしている。ケア記録を確認しながら、状態の変化がある場合は、ケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内にある各事業所の特性を活かした支援を行うため、様々なニーズに対して廊下で繋がっている病院や地域包括支援センター・健康福祉課と連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティア団体の受け入れや地元部落の方・消防署の協力による総合防災訓練、区内の小学校の里孫との交流等を継続して地域との繋がりを大事にしている。また、馴染みの美容室へ出かけ気分転換を図る機会もある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿って支援している。廊下で繋がっている、まごころ病院「内科・外科・整形外科」へ受診されたり、眼科・歯科・脳神経外科等の長年のかかりつけ医で診てもらうため、家族対応で受診されている方もいる。	利用者全員が、渡り廊下で結ばれている隣接の「まごころ病院」をかかりつけ医としている。重度化や終末期に向けた対応についての協力関係が築かれている。他科受診の際は、家族対応を基本としているが、職員が対応する場合もある。医療機関との情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、介護職と看護職が連携を密に行い、異常の早期発見・速やかな対応ができるように利用者の健康管理を行っている。訪問看護が2週間に1回来た時は、情報を報告・共有している。隣接の病院の医師・看護師・PT等と連携を図っている。また、看取りケアの際は、医師・訪問看護士と情報共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、職員が頻繁に面会に行き、状態の把握に努めている。また、家族と主治医と話し合う機会を設けて、回復状況や早期退院に向けて意見交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針について、家族に説明して同意を得ている。本人や家族の意向を尊重した看取りケアを実施しており、安らかに最期を迎えるように、医療機関と介護職・看護職で連携を強化して対応している。また、急変時のマニュアルロールプレイを行っている。	看取り加算が導入された時期に、併設の特養ホームの指針をひな形として「重度化した場合における対応に係る指針」を策定した。隣接の「まごころ病院」の医師の協力もあり、「看取り」に向けた体制を整えている。希望する家族から同意を得て、看取りを行った例もあり、職員研修を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、全職員対象に心肺蘇生法等について研修を実施している。また、必要に応じて緊急時の対応や吸引器の取り扱い、行方不明の緊急事態マニュアル等についてロールプレイを定期的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームの夜間避難練習は、7月に実施しました。役割分担では、地元部落の応援を頂き避難誘導の協力と徘徊利用者の見守りを協力して頂きました。	7月には、「ぬくもりの家」全体で、19時に総合防災訓練を地域の自衛消防協力隊や家族の参加も得て実施した。9月には、悠悠館・まごころ病院との三者合同の訓練を実施予定である。併設事業所を含め、夜間勤務職員5人体制で心強い。自家発電設備もあり、福祉避難所の指定を受けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」を月1回、全職員が読んでチェック表に印鑑を押すようにしている。また、利用者一人ひとりの思いを尊重してケアするように、利用者への不適切な言葉かけ等は、職員同士で注意し合っている。また、認知症があっても自分らしく生活できるような接し方を工夫している。	入浴時のプライバシーは確保されている。事業所内にトイレが4ヶ所あり、ドアとカーテンによりプライバシーが保たれている。トイレ失敗時には、バグを使用して(隠して)汚れ物が他の利用者の目に触れないように配慮している。利用者が重度化しており、声がけの工夫をしながら対応することとしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味活動(畑作業)は、利用者が自由に選んで行っている。月1回、季節に合った行事食(さなぶり・土用の丑等)を利用者に聞いて懐かしい好みの料理を楽しめるように取り組んでいる。他、日常生活では、自分で出来る範囲で身の周りの掃除など進んで行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	冬期間・雨の日以外は、中庭まで散歩して日光浴や花の鑑賞を行っている。日常生活において決まった生活パターンではなく、その人らしさを大事にしている。落ち着きがない利用者には、寄り添って対応して落ち着いて生活できるようにしている。脳トレ・塗り絵・パズルなど、本人の意向を確認しながら勧めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	物忘れがあっても自分で出来ることはやって頂くように(ボタンかけ・衣類の着脱等)声かけや見守りをして促している。また、家族と一緒に地元の顔馴染みの美容室に出かける場合もある。米寿のお祝いには、化粧をして気分転換を図る。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	GH畑で様々な野菜を作っている。重度化に伴い、一部の利用者と収穫している。調理は難しいので、盛り付けや野菜を切るなど出来る限り利用者と一緒にしている。	食事内容は、冷蔵庫の中を見て考える「実施献立」としている。食材の買い出しに、利用者が同行したこともあったが、今は職員のみで対応している。調理(刻み)とテーブル拭きをする利用者は1名だけとなった。昼食は職員も一緒だが、食事介助が多くなり、利用者の食後に急いで食べる状況となっている。畑栽培の野菜等を食材として活用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、毎食時チェックして記録している。ラクラクごっくんを使った食事介助、ソクト食、刻み食、ミキサー食、代替食(エンシュア等)など個々の状態に応じて対応している。また、随時栄養士に検食簿を提出し、助言をいただいている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、食後のうがいと就寝前の口腔ケア・義歯洗浄・消毒の支援をして清潔保持に努めている。また、食事前の嚥下体操・唾液腺マッサージを利用者の状態に合わせて行い誤嚥防止に努めている。歯みがき指導や治療については、家族対応で歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを記録し、直ぐにチェック出来るように排泄チェック表に記録して把握に努める。重度者も含めて、定時・動きがある時のトイレ誘導をしている。身体に痒みがある方は、布パンツを着用、または、自分で上げ下げが出来る方は、声かけや見守りをして促している。	排泄が自立している利用者は2名いる。他の方は、おむつ使用とリハビリパンツを使用している。現状維持に努力している状況で、自立支援はなかなか難しい。排泄の失敗時には、バッグ使用（隠して持ち歩く）でプライバシーの確保に努めている。チェック表を活用して、時間ごとの声がけにより、排泄の失敗が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳酸菌飲料を提供しており、昼食時は、ヨーグルトか牛乳を提供している。便秘予防ができるように水分摂取量の確認や水分補給を促している。食事を作る際は、青菜を使うようにしている。朝食後に散歩をして身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、予定通り実施している。熱がある時は、清拭をして身体の清潔保持に努めている。また、利用者の重度化に伴い電動リフトを使用して、安全・安心に入浴ができるように努めている。	平日の午後に4日間の入浴日を設定し、週2回の入浴を確保している。対話をしながら入浴を楽しんでもらっている。個浴対応の浴槽だが、浴槽への出入りが困難な利用者に対応するため、電動リフトを設置した。入浴できない場合は、シャワー浴や足湯・清拭で対応している。年1回は、「ひめかゆ」小旅行も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠できるように、利用者の生活パターンを把握して、リハビリを兼ねて散歩を促すなど、両足に浮腫みがある方には、足を挙上して休息できるように配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方されている薬の内容が把握出来るように個別の薬情報綴で確認している。また、薬は個別包にして、氏名・服薬期間・薬剤名を印字してもらい、服薬時は、職員複数で確認し合い服薬している。誤薬がないようにマニュアル通り実施している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から得意な仕事や趣味を把握して、日常生活の中で、役割として、テーブル拭きや洗濯物干し等を利用者の状態に合わせて協力して頂き、感謝の気持ちを伝えることで、いきいき生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元の小学校の運動会、ひめかゆ小旅行、胆沢城史跡地のあやめ見学など、利用者の意向を確認しながら外出を実施する。また、ひめかゆ小旅行では、家族の方も参加され、利用者の皆さんと交流が図られる。	天気の良い日には中庭で日光浴をしたり、事業所に隣接する「達者の里」の公園を散策している。商店街まで距離があるため、施設内の地域交流スペースに訪問販売の店が設けられ、買い物を楽しんだり、喫茶コーナーでくつろいだりできる。すぐ近くがコースとなる駅伝見物や初詣など外出機会の工夫もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自動販売機、移動販売、施設内の喫茶はあるが、一人で買い物はできない方が多い。利用者によって所持金管理に不安がある方は、事業所で「預かり金管理」をして、日用雑費の購入など行っており、入出金時には、職員2人で確認している。面接時、預かり金管理帳と残金の確認をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便のやりとりは職員が確認して受け取り、利用者に手渡して中身の確認していただくようにしている。また、自分でサインできる方には、直接受け取って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花を飾ったり、徘徊する方が自由に歩ける環境づくりをしている。一人で寛げるスペースとして、ソファを置いて自由に居心地良く過ごせるように工夫している。畳のスペースは、仲間と談話ができるように快適な空間を作っている。	事業所内の壁面は、職員が飾り付けたシンプルな装飾が落ち着いた雰囲気を出している。食堂でもある共用スペース以外でも利用者がくつろげるようにソファが置かれ、畳の小上りもある。訪問時、利用者は思い思いの場所で過ごしていた。利用者の作品は、事業所を出た中廊下の壁面に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーにロールカーテンを設置して、面接の時等に気軽に過ごせるように気配りしている。また、一人でソファで過ごしながらか園を眺めたり、自由に絵本を読めるスペースなど癒せる空間を工夫している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具やテレビなど馴染みの物を居室に置いて、自宅と同じ家具の配置や雰囲気作りを家族に聞きながら取り組んでいる。	居室の入口に担当職員の顔写真が貼られている。居室の設備はベッドとエアコンのみだが、視察した居室にはテレビや椅子のほか、多くの収納ケースが置かれていた。使い慣れたタンスを持ち込んでいる利用者もいて、自分の部屋がここに移動したという印象を受けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリー・オール電化を使用している。毎月、危険個所のチェックをして、リスク予防に向けて取り組んでいる。		